

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ① 一人ひとりの進路希望を実現できる学力を身につける。
自己の将来ビジョンを可能な限り明確にし、その進路実現のための確かな学力と実行力を備えた生徒を育成する。
- ② 自ら考え行動できるように、自主自律の心を養う。
学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組み、自ら主体的に考え粘り強く行動できる生徒を育成するとともに、相手の痛みが共感できる優れた人権感覚を身に付けさせる。
- ③ 国際交流体験を通して、自己発見と他者理解を深める。
海外の研修に積極的に出かけて国際感覚を磨き、見聞を広める。また、外国の諸団体を積極的に受け入れ国際交流を推進することにより、将来、国際人として飛躍できる資質・能力を育成する。
- ④ 国内最高レベルの音楽教育を推進する。
国や府の推進事業等を積極的に活用し、音楽科の講師とも一体となって最高レベルの音楽教育を推進することにより、生徒の音楽的才能を開花させる。

2 中期的目標

- ①に関する中期的目標
 - ①教員の授業力の向上を期すため、平成 21 年度から推進している校内研究授業や外部公開授業を今後 3 年間さらに活発化させ、「魅力ある授業」「分かる授業」の確立に向け一丸となって取り組む。
 - ②授業評価 PT を中心に授業評価アンケートを年間 2 回実施し、教科担当者の自己分析は勿論のこと、教科、学年、学校全体で綿密に分析・協議し、効果的な授業改善を図る。授業満足度 80% を目標とする。
 - ③自己の将来を見据えたキャリア教育を 1 年次より段階的・系統的に推進し、進路目標の明確化を図る。
 - ④放課後、土曜日、長期休業中の補講習をさらに充実させ、3 年間を見通した計画的・発展的な指導体制を築くとともに、家庭学習を中心とした自主的な学習時間の増大を図り、最大限の進路実現を図る。
☆国公立大学現役合格者 50 名 関関同立現役合格者累計 180 名を目標とする。
 - ⑤「使える英語プロジェクト事業」を活用して、英語運用能力を高めるとともに、進路実現に必要な英語力の向上を図る。
- ②に関する中期的目標
 - ①遅刻指導を徹底させ、基本的生活習慣の確立を期す。年間遅刻総数 2500 を割ることを目標とする。
 - ②生徒自治会や PTA と協力して、朝の挨拶運動を推進し、挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
 - ③地域清掃活動及び地域の高齢者施設、病院との交流活動の充実を図る。近隣の小・中学校とも連携して活動を活性化させる。
 - ④新入生へのクラブ紹介やオリエンテーションを充実させ、普通科生徒全体の加入率 90% 超えを目標とする。
 - ⑤参加体験型の取組を含む 3 年間を見通した人権教育の充実を図り、特に障がいがある人たちに対する思いやりと共感の精神を育成する。
 - ⑥スクールカウンセラーや関係機関と連携することも含め、校内の教育相談体制を充実させる。
- ③に関する中期的目標
 - ①「使える英語プロジェクト事業」を活用して、国際交流に必要な英語のコミュニケーション能力を向上させ、有意義な国際交流の実現を図る。
 - ②海外修学旅行、海外語学研修、ウィーン音楽研修を継続実施し、国際感覚を磨くとともに、最大限の教育的効果を上げる。
 - ③国際交流基金日中交流センター等と連携し、長期・短期の留学生を積極的に受け入れる。
 - ④大阪観光コンベンション協会や駐大阪韓国文化院等と連携して、海外の学校の訪問を積極的に受け入れ、有意義な国際交流を展開する。
 - ⑤国内に居ながらにして国際交流を体験できるような様々な機会を提供する。
 - ⑥国際交流委員会（教員）の組織的活動を充実させるとともに、各学年の生徒国際交流委員会の定期的開催を定着させ、活動を活発化させる。また、国際交流新聞の定期的発行を軌道に乗せる。
- ④に関する中期的目標
 - ①国や府の推進事業等を計画的に活用して、日本の伝統文化や外国の音楽文化を学ぶ機会を積極的に設定するとともに、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座の質と回数を充実させる。特別レッスン、特別公開講座については、年間 30 回の開催を目標とする。
 - ②音楽科講師との連携を強化し、最高レベルの音楽教育を推進するとともに、進路保障の充実を図る。
音楽科現役生徒の進路決定率 95% 以上を目標とする。
 - ③一流の指揮者を招聘して、NHK 大阪ホールでの定期演奏会を継続・発展させる。
 - ④生徒の自主運営による校内演奏会やアウトリーチ活動など、発表の場を多く体験することで音楽的能力や企画力の伸長を図る。
 - ⑤小・中学校や地域への広報活動を活発に行い、本校音楽教育の素晴らしさを積極的にアピールする。
 - ⑥海外の音楽学校と連携し、交流を促進する。また、その交流を活発化させるため、「使える英語プロジェクト事業」を活用して、音楽科生徒の英語コミュニケーション能力の向上を図る。
 - ⑦世界に羽ばたく音楽家の育成を期して、特に音楽的資質・能力の高い生徒を中心に、T-NET による特別英語レッスンを定期的に継続実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|----------------------------|------------|
| | |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---------|---|--|---|------|
| 取組 1 | <p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。</p> <p>①研究授業や公開授業の推進と若手教員の育成</p> <p>②授業評価アンケートの実施</p> <p>③キャリア教育の推進</p> <p>④進路実現に向けた補講習等の体系化と実施 ・自主的な学習時間の増大</p> <p>⑤英語運用能力及び英語力の向上</p> | <p>①校内研究授業（全教科）を6月・11月の2回実施する。若手教員とベテラン教員との意見交換会を実施する。 ・「使える英語プロジェクト」事業を活用して、英語科教員に対する英語力向上研修を積極的に推進する。</p> <p>②非常勤講師を含む全教員対象に7月、11月に実施し、結果を分析・実践・検証して授業改善を図る。</p> <p>③「総合」の時間やLHRを活用して自己の進路を考える。大学や企業等と連携して進路実現に向けた具体的な取組を図る。</p> <p>④土曜講習、放課後講習、朝学習等の補講習を3年間を見据えて体系化し、効果的な指導を展開する。国公立や関関同立進学に向けたセミナーの継続実施（博物館・美術館・図書館の活用、特設講座による理科実験実習の実施。） ・各教科で効果的な課題を積極的に提供し、自学自習の環境作りを仕掛ける。定期的に学習実態調査を行う。</p> <p>⑤「使える英語プロジェクト」事業を組織的に展開する。ICTやタブレット型PCを活用した授業を展開する。 ・「コミュニケーション英語」の授業において、様々な工夫をしてプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートのスキルの向上を図る。</p> | <p>①研究授業を全教科実施できたか。 意見交換会を2回以上実施。</p> <p>②自己診断の授業に対する肯定的回答を70%以上とする。</p> <p>③大学や企業と連携したキャリア教育を4回以上実施。</p> <p>④体系化され教職員の共通理解のもと実施されているか。 ・定期的な学習実態調査の実施。自主学習時間の段階的アップ ・国公立大現役合格30名（H24：28名）、関関同立大現浪合格150名（H24：124名） ⑤事業が組織的に展開できたか。タブレット型PCを活用した授業が定着したか。 英検受検者数準2級350名（H24：303名）、2級150名（H24：98名） 準2級以上の合格率の目安→受験者の75%以上</p> | |
| 取組 2 | <p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。</p> <p>①遅刻指導の徹底</p> <p>②挨拶運動の推進</p> <p>③清掃活動や地域交流活動の充実</p> <p>④部活動の活性化</p> <p>⑤人権尊重の教育を推進</p> <p>⑥教育相談体制の充実</p> | <p>①定期的に遅刻防止指導週間を設定し、指導の徹底を図る。集会等いろいろな機会を通じて説諭する。授業遅刻及び遅刻常習者に対しては、関係学年・部署と連携するなど効果的な指導を図る。</p> <p>②朝の挨拶運動は定着しており、継続実施する。一般来校者に対する挨拶の励行をまずクラブ部員から推進していく。</p> <p>③生徒と教職員が協力して校内の清掃活動を活発に行う。近隣の清掃活動も実施する。音楽科や吹奏楽部を中心に高齢者施設や病院等との交流活動を促進する。 ・校内美化を啓発・推進。</p> <p>④各部の活躍を校外に積極的に発信（ポスター作成・HP更新等）</p> <p>⑤参加体験型を含む効果的な人権教育を継続して実施する。</p> <p>⑥あおぞら委員会（教育相談委員会）を定期的に開催するとともに、気軽に相談できる校内の雰囲気高める。</p> | <p>①年間遅刻総数2500を割る。（H24：3000超え）</p> <p>②挨拶についての調査（自己診断）で肯定的回答を80%以上とする。</p> <p>③合同清掃活動を含む年間3回以上の実施 ・年間5回以上の交流活動の実施 ・美化運動が効果をあげ、校内が美しくなったか。</p> <p>④全学年の部活動加入率80%以上</p> <p>⑤人権教育実施後アンケートで肯定的回答を70%以上とする。</p> <p>⑥相談体制に対する生徒の肯定的評価を70%以上とする。</p> | |
| 取組 3 | <p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。</p> <p>①国際交流に必要な英語のコミュニケーション能力の向上</p> <p>②海外研修の推進</p> <p>③留学生の積極的受け入れ</p> <p>④海外の学校の積極的受け入れ</p> <p>⑤様々な国際交流の機会の提供</p> <p>⑥生徒国際交流委員会の活性化</p> | <p>①国際交流委員や海外語学研修を中心に、T-NETによる放課後の特設レッスンを積極的に実施する。 「使える英語プロジェクト」事業を積極的に活用する。</p> <p>②香港マカオ修学旅行、オーストラリア語学研修に精力的に取組み、画期的な成果を収める。</p> <p>③長期留学生（1年間）、短期留学生ともにこれまで以上に積極的に受け入れる。</p> <p>④中国、韓国、台湾など近隣アジア諸国の学校のみならず、他地域との交流も積極的に行う。</p> <p>⑤国内に居ながらにして国際交流を体験できるような機会を提供する</p> <p>⑥生徒国際交流委員会を定期的に開催するとともに、国際交流新聞を定期的に発行する。</p> | <p>①定期的に継続実施</p> <p>②事後の生徒アンケートの満足度90%超</p> <p>③留学生の成長度と生徒への波及効果</p> <p>④交流活動3回以上</p> <p>⑤2回以上の機会の提供</p> <p>⑥年間3号以上発行</p> | |

| | | | | |
|-----------------|--|--|--|--|
| <p>取組 4</p> | <p>「鍛える」「楽しむ」取組を展開する。 ①国や府の推進事業等の積極的活用、及び特別レッスン、特別公開講座の充実</p> <p>②音楽科講師と連携し、最高レベルの音楽教育を推進</p> <p>③定期演奏会の継続・発展 ④生徒の自主運営による音楽的能力や企画力の伸長</p> <p>⑤広報活動の活発化</p> <p>⑥海外の音楽学校との交流を促進 ⑦世界に羽ばたく音楽家の育成</p> | <p>①国、府、民間事業を活用し、講師を継続的に招聘し、一定のテーマに基づいて長期的な視点で指導が行えるよう企画する。(オペラ、伝統芸能(能・文楽)等) ・DEANと連携し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座の質と量を充実させる。 ・取組成果を積極的に発信する。</p> <p>②通常の授業のほか、生徒の音楽的才能を開花させるために十分な指導体制を整えとともに、進路実績のアップを図る。</p> <p>③9月22日(日)にNHK大阪ホールにおいて音楽科定期演奏会を開催する。</p> <p>④従来の学内演奏会に加えて、地域等でボランティアによる演奏会を企画し、発表する。 演奏会の企画・運営について、生徒の活躍する場面を増やしていく。</p> <p>⑤「音楽科説明会」「音楽基礎講座」(中学生向け)「あなたもピアニスト」(小学生向け)等を企画し本校をめざす児童生徒を発掘していく。 ・HP(音楽科)の更新頻度を上げる。 ・地域や音楽団体と連携し、本校生徒と交流演奏会を実施する。</p> <p>⑥⑦海外の音楽学校と合同演奏会を開催し、音楽的才能のみならず、英語で堂々と交流できる態度を育てる。</p> | <p>①一つのテーマについて年間を通じて授業を実施 ・特別レッスン・特別公開講座を年間25回以上実施。 ・HP掲載等により成果を発信</p> <p>②国公立大現役進学15名が目標。</p> <p>③満席の観客を動員</p> <p>④学内演奏会年3回 ボランティア演奏会年3回以上実施</p> <p>⑤創意工夫を懲らした説明会の実施 ・4回以上の実施 ・HPの定期的更新</p> <p>⑥⑦台湾の音楽学校との合同演奏会開催。 T-NETによる特設レッスンの実施。</p> | |
|-----------------|--|--|--|--|